

HUGコミ

第9号
2008年11月

こどもパートナーズ(東村山市秋津町) / FAX: 042-397-1024 / E-Mail hug-partners@jcom.home.ne.jp / URL http://

HUGこどもパートナーズの活動紹介・その9

預け合いで運営 HUGサロンぷらっと

毎週月曜日
10:00~12:00
いきいきプラザ1階ロビー

「ぷらっと」はいきいきプラザ1階喫茶室のとなりのスペースで毎週月曜の(第5月曜と祝日を除く)10時から12時までに行っている子育て中の親子のためのサロンです。

狭い場所ですが、冬の晴れた日は大きな窓から陽の光が入りとても暖かく、予防接種や市役所での手続きの帰りなどに寄ってくれる方が多いです。

昨年度までは小学生の子を持つママが子どもが学校に行

っている間に運営していたのですが、今年度のスタッフメンバーは1歳児から3歳児の子育て中のママ達が中心となり、小学生の子を持つママにも手伝ってもらっています。

常時2人スタッフがいますので子どもを遊ばせながらお話したり、地域の子育て情報など聞いてくださいね(2007年度の子育て情報誌「なないろぼけっと」を作ったメンバーがいます!)

私たちが未就園児の子を子育て中だと知っている顔見知りの人には「あれ? お子さんどうしてるの?」とよく聞かれますが、スタッフ担当と保育担当に分担しているので当事者が保育しています(保育担当は、自分の子とぷらっとに出ている別のメンバーの子を一緒にみる預け合いという形)。晴れた日は近くの公園へ、雨の日は別室で遊んでいます。

市役所の駐車場があるので、車でないと出かけるのが大変な親子の方もぜひお待ちしております。

(ぷらっとスタッフ M)



通り道なので、気軽に寄ってみてください~い!



市議会傍聴ツアー報告

傍聴ツアー参加のママから感想が寄せられています。2008年12月議会でも企画しますので、興味のある方はお問い合わせください。



Kさん
(1歳児ママ)

「HUGコミ」の傍聴ツアー報告を読んで興味を持った私は、1歳2ヵ月になる娘と一緒に初めて、市議会傍聴ツアーに参加しました(^3^)/
知り合いのいないし、大丈夫かな?なんて思いながら、ちょっぴりワクワク、ドキドキしてました。娘が騒いだので、傍聴席には少ししかいられませんでした。上から見る不思議な世界に少し緊張しました。

廊下にあるソファに座り、スピーカーの声を聞きながら授乳していたら娘はぐっすり寝てしまったので、思った以上に傍聴できました。早口で聞き取りにくい議員さんもいましたが、HUGさんが、通告書を見ながら、解りやすく説明してくれたので楽しかったです。

でも、議会の内容については、正直ガッカリ。会議は、問題解決する場ではなく、意見や質問も事前に書いて来た文章を読み聞かせ合う場のように、率直な意見を言い合う場ではなかった。それくらいなら私も参加出来そうだし、なんて心の中で思っていました(((^_^;) それでも、また傍聴する予定です。興味のある方、一緒に参加しましょう!



Jさん
(3歳・1歳ママ)

市議会の傍聴へ何度か行きました。私も最初は「議会なんて、難しい話ばかりでわからないだろうし、自分には遠い存在だから...」と関心もありませんでした。

ところが私自身、子どもができて、子育てひろばなど地域との関わりができてくると、行政というものが私たちの日々の生活とつながっていて、かけ離れたものではないということがわかりました。子どもが保育園に通うようになると、より多くの情報を知りたいと思うようになりました。

「傍聴」は一人で行くには敷居が高いと思っていましたが、「傍聴ツアー」では、知った方と子連れでも参加できるのが良かったです。一度見てみると、市の情報を知ることができます。難しいことは苦手だと思っている人でも、議会では、ゴミのこと、道路や保育園、医療など身近な問題が議論されていて興味を持てます。私達が住んでいる市を住みよくしたいという思いは、皆がもっていると思うのです。

ここで感じたことを、今度は周りの人に話したりして、発信してみようと思います。現在育休中の私は、市税を自分で払っていくたびに、「このお金が活かされて使われるように」と願っています。皆さんも一度、傍聴ツアーに参加してみませんか?



「市議会」なんて、遠い世界のようにですが、実は私たちの生活のことを話している場です。子育てしていて「これは何とかならないのかしら」なんて思ったこと、ありませんか? HUGは「まちづくり」の視点も大事にしています。住み良いまちは、市民が市政に関心を持っていくことから作られていくと考え、子育て中の方が気軽に傍聴できるようツアーを企画しています。ぜひ一度ご参加を!

2008年度 12月議会傍聴ツアー

HUGメンバーと一緒に見学してみませんか? もちろん子連れでどうぞ(好きな時間に帰れます)。

12月5日(金) 午前9:55 午後12:55
市役所1階エレベーター集合

連絡先 090-6479-4722(磯部)

ぶくぶくの
パパサロン企画
保育つき連続講座

カナダの子育て支援プログラム ノーバディーズ・パーフェクト

Nobody's Perfect

パパママクラス
同時開催!

自分にあった子育ての仕方を見つけていく連続プログラムです。パパとママはそれぞれ別のグループで、ファシリテーター(認定資格者)がナビゲートします。お子さんを預けて、仲間と共にゆっくり自分自身と家族を見つめる時間を持ってみませんか。手作りお菓子とお茶のティータイムもあります。

【日程】2009年1月24日~2月28日の毎週土曜日 全6回

【時間】10:00~12:00

【会場】東村山市役所いきいきプラザ2F

【対象】お子さんが1~2歳で、連続講座に両親とも出られる方8組、無料

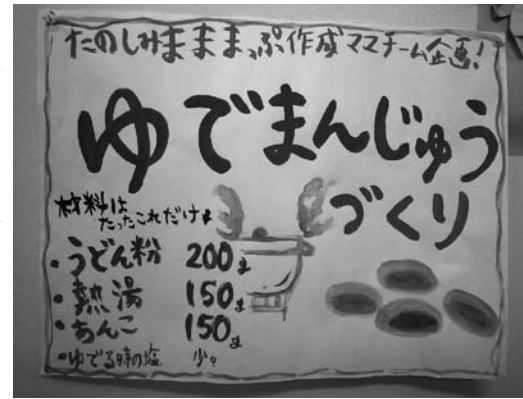
*お申し込み・問い合わせ 電話 393-4181

(のぐちちょう子育てひろばぶくぶく)

雑記報 ■2008年もあとひと月。10月には「ぶくぶく」が周年を迎えました。マップづくりをおこなったり、ぶくぶく発のサークルができた、ママ企画の講座が行われるなど、順調に運営できてきたことを皆様に感謝しております。ぶくぶくのパパサロンでは、来年1月に「ノーバディーズ・パーフェクト(NP)」の両親向けクラスを企画しました。パパ向けも珍しいのですが、ママクラスと同時に開催というのは、もしかしたら全国でも初めてかもしれません。これまで参加したママからは、子ども預けてゆっくり自分を見つめられたと好評のプログラム。パパが連続で参加できるかというのが難しいところではありますが、とてもいい機会なので、都合をつけてぜひご参加いただければと思います。サロンは8か所。今回ご紹介した「ぷらっと」や「ひまわり」など、当事者ママたちが活躍です。富士見町ハトホーム内の「子育て広場 ハトの家」は1月から第2/4金曜日の月2回に増えます。遊びに来てください。10/11月に全6回で開催した公民館講座「はじめのママ講座」では企画運営で協力し、好評でした。HUG内自主サークル「整体ヨガ」は月2回。子連れ参加OK。産後の骨盤矯正に効果バツグンです。ひろばやよるべにチラシあります。■昨年引き続き、今年も「2か月の赤ちゃん」とママのあやしたとおしゃべりの会」を毎月第4木曜日に実施中です。早い時期での外出、お友達づくりの機会として喜ばれています。HUGコミ次号で詳しく特集する予定。お楽しみに。

「ままっぷ」チーム発
ゆでまんじゅう企画

東村山に伝わる「ゆでまんじゅう」をご存知ですか？ 地粉をねってあんを包んでゆでる素朴なお菓子ですが、季節行事には欠かせないものだそうです。マップ作りに参加していたメンバーがひろば企画として取り組んでくれましたが、キャンセル待ちが出るほど大好評！ 企画者のTさんに報告いただきました☆



Dさんが描いてくれたポスター&材料表

10月と11月、ひろばで ゆでまんじゅう作りを企画させて頂きました。きっかけは、マップ作りで東村山ならではの食文化を調べていて話題にあがりまして。「このあたりのおばあちゃん達が作ってくれるおやつに、ゆでまんじゅうってのがあらしいよ」「食べた～い! どこかで売ってる?」「これは売ってないらしいよ」「食べてみた～い!」

「…じゃあ、作ってみる?」。居合わせたひろばスタッフさんが提案くださって、このひろば企画が生まれました。これまで、いろいろなひろば企画に参加しましたが、自分が進行する側になるのははじめてのこと。正直不安もありましたが、試作をひろばのキッチンで行ってみて、「これならみんなで楽しく作れるかも!」という手ごたえを感じました。事前に材料の調達、当日の自分達の子どもの保育分担、全体の流れについてアドバイスをもらいながら打ち合わせをして、当日に臨みました。

いよいよ迎えた第1回目。

7名のママたちを前に、緊張と熱気で汗だく。予想外にまんじゅうが固くなってしまっていて冷や汗もかきました(涙)。人に何かを教えたり伝えたりするって、すごくエネルギーを使いますが、でも、まんじゅうの生地をこねながら、ママたちの見せてくれた笑顔が何よりうれしかったです。ご参加頂いたみなさま、またサポートして下さったひろばのスタッフの方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

東村山生まれの私は、じつは小さい頃、祖母が作ってくれたゆでまんじゅうを食べていました。ごくシンプルなゆでまんじゅうを初めて自分で作ってみて、20年ぶりに食べながら、昔の祖母の家の台所や玄関、兄弟のぼうず頭、祖父が大事にしていたたくさんの盆栽……など様々な思い出が次々とよみがえりました。(T)

ま・ち・こ・ら・む・も
わたしたちの住まちは…

子どもたちのふるさと(1)

まゆ玉の風景

久米川町 市川喜久男

(聞き手) 平沼美春



*まゆ玉=1月14日に樫か榎の木の枝にみかんや団子などをさす飾り。オカエイコ様を祝うために盛んに行われていた。団子はシロマイ(白い繭)を意味し、うるち米で作った。みかんはキマイ(黄色い繭)を意味するもので、白と黄色とが調和して美しいものだった。(「東村山市史・昭和四十六年度版」より)

わが家の二人の子どもの私たちは根っから東村山っ子。借金もいっぱいあるし、縁はどんどんなくなるので引越したいと思っただけでもありませんが、「子どもたちにとっってはここがふるさとなんだ」と気づいたときからここをもっと住みやすい楽しいまちにしたいな〜と思うようになりました。そして東村山の昔の様子や行事のことなどに興味を持つようになりまして。今回は久米川町にお住まいの市川喜久男さん(大正15年11月生まれ83歳)に、子どものころの様子をお聞きしました。市川さんのおうちでは、代々続く年中行事を同居されている娘さんが負担のない範囲で続けているそうです。信仰心が薄れている現在の私たちに対して「いやいや、今でも困った時に祈ったり拝んだりするでしょう。ちゃんと心には神様を大事にする気持ちがあるんだよ」と

笑顔でお話してくれました。一回目は一月行事の「まゆ玉」についてです。(平沼)

まゆ玉の団子は、陸稲(※)を家の石臼で粉にして作った。母親がおばあちゃんが石臼にお米を入れててごろごろとやって粉にしたのを絹ぶるいという網戸よりもっと細かいふるいにかけて、粗いのが残るとまた石臼にかけ、きれいな粉を作ってそれでお団子を作った。お湯でねったか水でねったか覚えてないけど、ねってちぎってまるめて蒸かした。母親なんかは慣れているから2つずつ丸めていた。子どもらは1つでもカッコ悪くなっちゃうけど(笑)。母親が団子を蒸かす、蒸けあがる度にきょうだい二

人も三人もでうちわで扇ぐ。そうすると急激に風が当たって団子の表面がピカピカ光った。月見のときも同じように作った。

団子をさす木は榎なら榎、樫なら樫と家によって決まっています。うちは代々榎の木だった。冬には全然葉がなくなる榎の木にさすのもきれいだっただが、父が常緑樹の榎の木のいっぴいある葉をちよっともいで余分な枝は折って形よくしてさした。台は座敷の隅の角に立てるが、木を立てるのは大変で、石臼が二つに分かれるからその重い石を台にして、臼の穴のあいているところに木をさして立てた。

子ども達は団子を丸めたり、団子やみかんをさすのは喜んで手伝った。みかんもしょっちゅう食べられるわけではなかった。東京の親戚がお正月にみかんの箱を持ってきてくれると嬉しくてね。40cm×30cm、深さ10〜15cmくらいの木の箱につまめて、蓋を釘で止めて、縄でからげてあった。今みたいな大きないいものでなく、甘みも今の半分もない。それでもみかんは子どもの憧れだった。バナナもそう。バナナなんて病気の時しか食べられず、見ることもめづらかった。夜中にまゆ玉からちよ

つとみかんを取って食べたりのほうにさしてね(笑)

まゆ玉は家にあるすべての神棚、仏壇など神様がおまつりしてあるところに、小さい小枝に七粒ずつくらいさしてあげた。うちには荒神様、恵比寿様、大黒様、大神宮様、お稲荷さん、お不動様がまつつてある。仏壇と床の間にもあげた。一日おいて次の日には全部こわして焼いてお醤油をつけて食べる。これがまたおいしいの!

当時は養蚕が盛んで、お蚕さんに対する「よくできますように」「いいまゆがでますように」という願いなどを込めてまゆ玉をしたと思う。榎の木に飾るまゆ玉のほかに、桑の木にさすのもあって、桑の畑に行くとき古くなった桑を残してあって、ごちごちになつた枝を切って台と一緒にのせて、そこにお団子をサトイモの格好につくつたものをさした。野菜もたくさん取れるようにとも念しながら作ったものだと思う。

※陸稲は炊く米。この辺りでは「おかげ」といった。東村山は北山公園付近の一部でしかお米がとれず、小麦を作る農家が多かった各家で一年間に使うだけ米は、小麦畑の隅で育てていた。

※来年一月十一日(日)にはふるさと歴史館でまゆ玉だんごづくりが行われます!(自由参加)

恩多ひまわり広場 17日

毎月第3水曜日 10:30~13:30

トミンハイム恩多町集会所(恩多町5-40-6)

利用料 50円(場所代&お茶付き)

主催:恩多ひまわり広場実行委員会

※ 駐車場はありません

※ 持参のお弁当食べれます

※ 連絡先 080-6624-4499(木)

